

第9回
(平成23年11月)

CASBEE戸建評価員試験
問題(新築及び既存)

次の注意事項をよく読んでから、解答を始めてください。

[注意事項]

1. この試験は、CASBEE 戸建—新築マニュアル(2010年版)及びCASBEE 戸建—既存マニュアル(2011年版)の内容に基づくものです。
2. 試験時間は、14時30分から16時30分までの2時間です。
3. 問題は表紙を除いて16ページあります。この他に解答用紙が1枚あります。
4. 解答用紙に受験番号(マーク欄にも記入)・氏名・生年月日(西暦)・試験会場名を記入してください。
5. 各問題につき1つの解答を選んでください。複数選択した場合は不正解となります。
6. 総合問題を除き、問題は分野ごとに分かれています。選択肢の全てがその分野に含まれる内容とは限りません。
7. この問題冊子への書き込みは差し支えありません。

<総合問題>

問題1 「CASBEE戸建-新築の概要」について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

- 1 「CASBEE戸建-新築」のねらいは、優良な住宅ストックを日本中に増やすことである。
- 2 評価対象に、外構、居住者の持ち込み機器、建物供給側から居住者への情報提供、部材製造段階や施工現場での取組みは含まない。
- 3 戸建住宅の総合的な環境性能を戸建住宅自体の環境品質（Q）と、戸建住宅が外部に与える環境負荷（L）の2つに分けて評価する。
- 4 評価結果を第三者に提示する際には、評価結果に加え、どの段階で、どのような条件で評価した結果なのかを正しく伝えることが重要である。
- 5 評価の基本姿勢として、総合的に評価するため、特定の取組みに特化した住宅よりも、関連分野に対しバランス良く取組む住宅を高く評価する。

問題2 「CASBEE戸建-新築の評価のしくみ」について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

- 1 大項目である Q_H1 、 Q_H2 、 Q_H3 、 LR_H1 、 LR_H2 、 LR_H3 の間の重み係数は、施主、住宅供給者、行政関係者等の利害関係者の価値観に基づく判断は反映されていない。
- 2 「すまいの環境負荷 L_H 」は、まず「すまいの環境負荷低減性 LR_H 」として評価される。
- 3 各評価項目はレベル1～5の5段階で評価されるが、基本的には現在建設される一般的な日本の戸建住宅がレベル3となるようレベルが設定されている。
- 4 評価項目の中には、環境に配慮した取組みの数で評価するものがある。
- 5 コストについては、実務上では重要な要素であるが、個人の判断にゆだねるべきで、評価しない。

問題3 CASBEE戸建-新築の「すまいの環境品質 Q_H 」の「評価項目」に含まれないものはどれか。

- 1 適切な暖房計画
- 2 断熱性能の確保
- 3 地球温暖化への配慮
- 4 火災に耐える構造
- 5 広さと間取り

問題4

CASBEE戸建-新築の「すまいの環境効率 BEE_H 」について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

- 1 「すまいの環境効率 BEE_H 」は、「すまいの環境品質 Q_H 」を「すまいの環境負荷 L_H 」で割った値である。
- 2 「すまいの環境負荷低減性 LR_H 」は、「 LR_H1 エネルギーと水を大切に使う」、「 LR_H2 資源を大切に使いゴミを減らす」および「 LR_H3 地球・地域・周辺環境に配慮する」の3つの分野で評価を行う。
- 3 「すまいの環境品質 Q_H 」と「すまいの環境負荷 L_H 」の評価対象範囲を区分する地表面上の境界は、外構を含む仮想境界である。
- 4 「すまいの環境品質 Q_H 」と「すまいの環境負荷 L_H 」については、それぞれに採点・集計を行い、最終的に5点満点の点数に変換される。
- 5 戸建住宅は「すまいの環境効率 BEE_H 」の値の大小に応じて、「Sランク(★★★★★)」、「Aランク(★★★★)」、「B⁺ランク(★★★)」、「B⁻ランク(★★)」、「Cランク(★)」の5段階に格付けされる。

問題5

CASBEE戸建-新築の「 BEE 値に基づくランク付け」について、次の記述のうち最も不適当ものはどれか。

- 1 「すまいの環境品質 Q_H 」74点、「すまいの環境負荷 L_H 」35点の場合、ランクは「Aランク(★★★★)」である。
- 2 「すまいの環境品質 Q_H 」75点、「すまいの環境負荷 L_H 」26点の場合、ランクは「Sランク(★★★★★)」である。
- 3 「すまいの環境品質 Q_H 」60点、「すまいの環境負荷 L_H 」50点の場合、ランクは「B⁺ランク(★★★)」である。
- 4 「すまいの環境品質 Q_H 」30点、「すまいの環境負荷 L_H 」50点の場合、ランクは「B⁻ランク(★★)」である。
- 5 「すまいの環境品質 Q_H 」24点、「すまいの環境負荷 L_H 」60点の場合、ランクは「Cランク(★)」である。

問題6

CASBEE戸建-新築における「低炭素化性能評価」について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

- 1 評価項目を採点すると、住宅の寿命や省エネルギーに係る項目の結果を参照して、自動的にライフサイクル CO_2 排出量の目安が算定される。
- 2 ライフサイクル CO_2 の排出率の大小に応じて、「緑☆☆☆☆」から「緑☆」までの5段階にランク付けされる。
- 3 温暖化影響チャートの「②建築物の取組み」には敷地内での取組みのうち、太陽光発電の取組みは含まない。
- 4 温暖化影響チャートの「オフサイト手法」とは、グリーン電力証書やカーボンクレジットの取得等が含まれる。
- 5 ライフサイクル CO_2 の「戸建独自計算」とは評価ソフトによらず他の公開された手法による結果に基づき評価する方法で、 BEE_H に反映される。

問題7 CASBEE戸建-既存の「既存版の評価の基本的な考え方」について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

- 1 評価対象には、維持管理の計画だけを評価し、実施状況は含まない。
- 2 評価対象について現状確認を行ったうえで評価することを原則とする。
- 3 設備機器を評価する場合は、その動作確認を行い、著しい劣化が認められる場合等は、最低レベルとして評価する。
- 4 実際のエネルギー消費量など、居住した結果の実績では評価せず、評価時点における設備等の性能について評価することとする。
- 5 採点のレベル設定においては、現在建設される一般的な戸建住宅がレベル3となるようにしている。

問題8 CASBEE戸建-新築の「評価ソフト」の「結果」シートの見方について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

- 1 「結果」シートには、入力した情報および計算した結果が全て表示され、評価結果の概要が分かるようになっている。
- 2 「すまいの環境効率（BEEランク&チャート）」には、BEE_H値と、SからCまでの格付けの結果が示される。
- 3 「ライフサイクルCO₂（温暖化影響チャート）」は、一般的な住宅（参照値）と比べたライフサイクルCO₂の目安が示される。
- 4 「大項目の評価（レーダーチャート）」は、各大項目とライフサイクルCO₂に対する取組みのバランスを確認するためのものである。
- 5 「中項目の評価（バーチャート）」には、各中項目の評価結果と、一般的な住宅（参照値）との比較を確認するための目安が示されている。

問題9 CASBEE戸建-既存の「建設」「修繕・更新・解体」のCO₂排出量の計算について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

- 1 評価時点以前に外壁の補修工事を行い、改修前の外壁材とは異なる外壁材を採用している場合、評価時点で採用されている外壁材の想定耐用年数にもとづき交換周期が設定される。
- 2 屋根材、陸屋根は「採用時の想定耐用年数」に応じて交換周期が設定される。
- 3 新築時の想定耐用年数が60年の住宅が、評価時点で築後20年を経過しているような場合は、躯体・基礎の寿命は40年として計算される。
- 4 「QH2.2.2維持管理の計画・体制」で、評価する取り組み1～3のうち、2つ以上に該当すると評価した場合、外壁材の交換周期を延ばしてCO₂計算される。
- 5 新築時に日本住宅性能表示基準「3-1 劣化対策等級（構造躯体等）」における等級3を満たしていた場合、躯体・基礎の寿命は90年としてCO₂計算される。

<Q_H1 室内環境を快適・健康・安心にする>

- 問題10** CASBEE戸建-新築の「断熱性能の確保」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。
- 1 日本住宅性能表示基準「5-1省エネルギー対策等級」の等級3を満たすので、レベル3とした。
 - 2 日本住宅性能表示基準「5-1省エネルギー対策等級」における等級2を満たさないため、レベル1とした。
 - 3 地域区分Ⅲに建つ住宅について、レベル5となる熱損失係数の目安を1.6 W/m²Kとした。
 - 4 「断熱性能の確保」では、暑さ・寒さに関する快適性を確保する建物の基本性能として、断熱性能を用いて評価する。
 - 5 地域区分Ⅵでレベル5と評価するためには、十分な断熱性能を有するだけでなく、所定の日射遮蔽措置を施す必要がある。
- 問題11** CASBEE戸建-新築の「日射の調整機能」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。
- 1 「日射の調整機能」は、夏の日射遮蔽の性能のみで評価する。
 - 2 評価対象は、主要な居室の東/南/西面の外壁（南面±150°の範囲）、および屋根に設けられた開口部である。
 - 3 主寝室の屋根に設けられた開口部も評価対象として、日射侵入率を算出した。
 - 4 開口部のほぼ全面に影を落とす落葉樹があるので、この日射遮蔽効果を考慮して日射侵入率を算出した。
 - 5 開口部の日射侵入率が夏期に0.7であったので、レベル1とした。
- 問題12** CASBEE戸建-新築の「風を取り込み、熱気を逃がす」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。
- 1 すべての居室で一方向に開口部があり、とくに通風・排熱を促す取組みは行われていなかったため、レベル1とした。
 - 2 すべての居室で一方向に開口部があり、さらに建物内に風の通り道を確保する方法が採用されていたので、レベル5とした。
 - 3 居間を含む一体的空間と主寝室において、二方向に開口部があるため、レベル3とした。
 - 4 居間を含む一体的空間と主寝室において、一方向の開口部があり、さらに開閉可能な天窓が設けられているため、レベル3とした。
 - 5 東と西に開口部を設けて、東西方向の通風を確保したため、一方向開口とみなした。

問題13 CASBEE戸建-新築の「犯罪に備える」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

- 1 侵入の可能な規模の開口部のうち、住戸の出入口、および地面から開口部の下端までの高さが2 m以下の開口部で、侵入防止対策上有効な措置が採られていれば、レベル4である。
- 2 住戸の内部に通ずる長辺が500mm、短辺が300mmの長方形の開口部は、侵入の可能な規模の開口部である。
- 3 全ての開口部に、1箇所の鍵が設置されているので、レベル3とした。
- 4 採用されていたCP部品を、侵入防止対策上有効な措置が採られている建具として判断した。
- 5 レベル4の条件を満たすとともに、バルコニーからの侵入防止に有効な措置がとられているので、レベル5とした。

問題14 CASBEE戸建-新築の「昼光の利用」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

- 1 レベル3の条件を満たした上で、居間を含む一体的空間において、有効採光面積を南面の窓と、さらに天窗でも確保したので、レベル5とした。
- 2 「昼光の利用」の評価では、基本的に居室の窓面積が大きいほど良いと考える。
- 3 住戸の単純開口率が17%であるためレベル2とした。
- 4 居室の床面積の合計が100㎡で、居室の開口部の合計面積が15㎡の場合、単純開口率は15%である。
- 5 単純開口率が20%で、加点条件を満たさなかったため、レベル3とした。

問題15 CASBEE戸建-新築の「静かさ」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

- 1 評価対象は、サッシ及びドアセットである。
- 2 全てのサッシが、日本住宅性能表示基準「8-4透過損失等級（外壁開口部）」の等級3で、ドアセットも等級3なので、レベル5とした。
- 3 全てのサッシが、日本住宅性能表示基準「8-4透過損失等級（外壁開口部）」の等級3で、ドアセットが等級2なので、レベル4とした。
- 4 全てのサッシが、日本住宅性能表示基準「8-4透過損失等級（外壁開口部）」の等級1で、ドアセットが等級3なので、レベル4とした。
- 5 全てのサッシが、日本住宅性能表示基準「8-4透過損失等級（外壁開口部）」の等級2で、ドアセットが等級3なので、レベル4とした。

<Q_H2 長く使い続ける>

問題16 CASBEE戸建-新築の「長寿命に対する基本性能」の「躯体」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

- 1 日本住宅性能表示基準の「1-1 耐震等級（構造躯体の倒壊等防止）」において等級3を満たしていたので、レベル5とした。
- 2 通常想定される自然条件及び維持管理の条件の下で3世代まで、大規模な改修工事を必要とするまでの期間を延長するため必要な対策を講じられているので、レベル5とした。
- 3 通常想定される自然条件及び維持管理の条件の下で概ね60年まで、大規模な改修工事を必要とするまでの期間を延長するため必要な対策を講じられているので、レベル4とした。
- 4 通常想定される自然条件及び維持管理の条件の下で2世代まで、大規模な改修工事を必要とするまでの期間を延長するため必要な対策を講じられているので、レベル4とした。
- 5 建築基準法に定める対策が講じられているので、レベル3とした。

問題17 CASBEE戸建-新築の「長寿命に対する基本性能」の「外壁材」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

- 1 木造軸組み工法におけるモルタル外壁の一般的な施工としたので、レベル3とした。
- 2 実物件における使用実績が60年の外壁基材を用い、交換する際に外壁基材と耐用性が同等である下地材を破損しない構造としたのでレベル5とした。
- 3 製品カタログに交換時期が40年と記載された外壁基材を用いたのでレベル3とした。
- 4 製品カタログに交換時期が60年と記載された外壁基材Aと、劣化促進試験により検証された耐用年数が40年である外壁基材Bを使用し、外壁基材Aの使用面積が過半を占めるので、レベル4とした。
- 5 劣化促進試験により検証された耐用年数が40年であるパネル化された外壁としたので、レベル4とした。

問題18 CASBEE戸建-新築の「長寿命に対する基本性能」の「屋根材、陸屋根」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

- 1 屋根材で評価する際、樋の耐用年数については評価しなかった。
- 2 屋根材で評価する際、複数種類の屋根材を採用していたため、最も面積が大きいものを対象として評価した。
- 3 屋根材で評価する際、屋根材を交換するときに屋根材より耐用性の高い野地板を破損しない構造としたため、レベルを1つ上げた。
- 4 防水層で評価する際、防水材の劣化を低減させる処置が施されており、防水層断絶に対して適切な処置が施されていたため、レベルを2つ上げた。
- 5 防水層で評価する際、防水材を交換するときに防水材より耐用性の高い外装建具を破損しない構造としたため、レベルを1つ上げた。

問題19

CASBEE戸建-既存の「長寿命に対する基本性能の躯体」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

- 1 躯体の長寿命に対する基本性能を、その残余耐用年数と計画的な点検・補修の有無により評価する。
- 2 残余耐用年数は、①新築時の想定耐用年数、②竣工年、③評価年の情報から求めることができる。
- 3 計画的な点検とは、日本住宅性能表示基準「11-1 現況検査により認められる劣化等の状況」別表2-2に基づく点検であり、評価直前のみを実施されていればよい。
- 4 構造耐力に係る性能上の問題が顕在化しており、残余耐用年数が50年以上と推定される場合は、レベル1である。
- 5 構造耐力に係る性能上の問題が顕在化しておらず、残余耐用年数が75年以上と推定される場合は、レベル5である。

<Q_H3 まちなみ・生態系を豊かにする>

問題20 CASBEE戸建-新築の「まちなみ・景観への配慮」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

- 1 新しく造成された住宅地で、対象住宅の周辺に全く建物が建っておらず、まちなみが形成されていない場合も、この項目は評価対象外とはならない。
- 2 庭のつくり方や植栽の樹種、配置などについて工夫が行われ、良好な景観形成に寄与しているため、「取組み2」の③として評価した。
- 3 エアコンの室外機や給湯機器が目立たないように、植栽で囲むなどの配慮をしたため、「取組み2」の⑤として評価した。
- 4 周辺が乱雑で統一感のない好ましくないまちなみであったため、特に景観的な配慮はしなかったものの、「取組み1」として評価した。
- 5 本項目では、まちなみ・景観に関する「美しさ」は評価対象としていない。

問題21 CASBEE戸建-新築の「敷地内の緑化」の評価について、下記仕様のレベルとして正しいものはどれか。

※仕様
・敷地面積：200㎡、建築面積：100㎡
・指定建ぺい率：60%
・地被植物：15㎡、高木樹冠面積：10㎡

- 1 レベル1
- 2 レベル2
- 3 レベル3
- 4 レベル4
- 5 レベル5

問題22 CASBEE戸建-新築の「生物の生息環境の確保」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

- 1 将来、高さが3m以上になることが見込まれる樹木を庭に植えたため、生物の生息場所になると考え、「取組み3」として評価した。
- 2 魚や虫の居場所にはならない手水鉢ではあるが、小鳥が水を飲んだり、水浴びしたりはできると考え、「取組み4」として評価した。
- 3 敷地境界に自然の石組みによる石垣を設けたため、多孔質な空間を確保しているとして、「取組み5」として評価した。
- 4 敷地が人里離れた自然豊かな場所にあり、周りを木立に囲まれており、水辺も近くにあつて、周辺に生き物が多く棲息しているものの、それだけではレベル5として評価できない。
- 5 小鳥の餌になる実のなる木を3種類以上植え、植え込みを連続させて生物の移動経路を確保し、さらに、チョウが蜜を吸える花々が次々に咲くよう配慮したため、3つの取組みに該当したとして、レベル5として評価した。

問題23

CASBEE戸建-新築の「地域の安全・安心」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

- 1 オープン外構にすると共に、敷地内の建物周囲に有効幅0.5m以上の空間を確保したので、避難ルート・消火活動空間を確保する「取組み1」として評価した。
- 2 防火性の高い樹種であるサンゴジュを、隣接住戸の台所や窓近くに、1.5mに1本の間隔で密に植えたため、「取組み2」として評価した。
- 3 夜間、住宅周りでの人の動きを視認できるよう、センサー付の外灯を設置したため、「取組み4」として評価した。
- 4 地域の防犯まちづくり条例に則って、敷地に砂利を撒くなどの対策を施したが、見通しを確保できなかったため、評価する取組みにならなかった。
- 5 敷地が洪水の危険性のある区域にあり、その対策として宅地の嵩上げを行ったので、「取組み6」として評価した。

<LR_H1 エネルギーと水を大切に使う>

問題24 CASBEE戸建-既存の採点基準について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか

- 1 「LR_H1.2.1.1 暖房設備」の評価において、暖房として使用するエアコンが、評価時点での統一省エネラベルの多段階評価で★★★★の機種と確認できた場合はレベル5である。
- 2 「LR_H1.2.1.2 冷房設備」の評価において、設置されているエアコンが古いなど、機器効率が確認できない場合はレベル1である。
- 3 「LR_H1.2.1.2 冷房設備」の評価において、評価時点での統一省エネラベルの多段階評価で★★★★の機種と確認できたが、故障して動作しない場合はレベル1である。
- 4 「LR_H2.1.1.1 木質系住宅」の評価において、構造躯体への「持続可能な森林から算出された木材」の使用について確認できず、建築後の経過年数が50年以上75年未満の場合はレベル5である。
- 5 「LR_H2.1.1.1 木質系住宅」の評価において、構造躯体の全てに「持続可能な森林から算出された木材」が使用されており、建築後50年未満の場合はレベル5である。

問題25 CASBEE戸建-新築の「暖房設備」「冷房設備」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

- 1 評価内容は、暖房設備による暖房エネルギー消費量、冷房設備による冷房エネルギー消費量の削減対策を評価する。
- 2 評価対象設備は、居間を含む一体的空間における主たる暖房設備・冷房設備である。
- 3 評価対象のルームエアコンが旧式であっても、発売当時の機器カタログに旧基準の省エネ基準達成率が記載されていれば、この値を用いて評価できる。
- 4 「主たる暖房設備」として燃焼式FFストーブを採用している場合、レベル3である。
- 5 冷房設備において、省エネ基準達成率が102%の場合、レベル5である。

問題26 CASBEE戸建-新築の「給湯機器」「浴槽の断熱」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

- 1 「給湯機器」では、給湯機器によるエネルギー消費量の削減対策を評価する。
- 2 給湯機器に潜熱回収型の燃料系瞬間式給湯器を用いる場合は、レベル3である。
- 3 2以上の浴室を有する場合は、利用率が最も高い浴室で評価する。
- 4 非断熱タイプの浴槽を設置する場合は、レベル5と評価されることはない。
- 5 断熱材を天井・壁・床に施した住宅の2階に断熱浴槽を設置する場合は、レベル5である。

問題27 CASBEE戸建-新築の「節湯型機器および給湯配管」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

- 1 先分岐方式給湯配管を採用し、住宅の断熱外皮貫通部から給湯機器に至る配管延長5mの給湯配管に断熱を施したため、レベル3とした。
- 2 ヘッダー方式給湯配管を採用した場合はレベル3であり、加点を満たせば最大レベル5と評価できる。
- 3 手元等で容易に止水操作できる水栓を、台所と浴室シャワーに採用した場合は、レベルを2段階あげられる。
- 4 最適流量4.3ℓ/分の台所水栓は、節湯型機器である。
- 5 浴槽の追い焚き配管全般に断熱を施せば、加点条件を一つ満たすことができる。

問題28 CASBEE戸建-新築の「照明・家電・厨房機器」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

- 1 5種類の機器に対するエネルギー消費量の削減対策について、省エネ基準達成率、あるいは統一省エネレベルの多段階評価で評価する。
- 2 照明器具、電気冷蔵庫、テレビは、統一省エネレベルの多段階評価で2つ星以下であれば、それぞれ0点である。
- 3 評価対象となる機器を複数所有する場合は、最も使用率が高いと見込まれる1台のみを対象に評価する。
- 4 ガスこんろは、省エネ基準達成率100%以上であれば、1点である。
- 5 電気クッキングヒーターを採用する場合は、その加熱方式にかかわらず、1点である。

問題29 CASBEE戸建-新築の「換気設備」の評価について、下記仕様のレベルとして正しいものはどれか。

※仕様
・システム消費電力45Wの換気システム2台。
・どちらも年間を通じて常時稼働している。
・建物の気積は350m³、気積に対する換気回数は0.5回/hとする。

- 1 レベル1
- 2 レベル2
- 3 レベル3
- 4 レベル4
- 5 レベル5

問題30

CASBEE戸建-新築の「太陽光発電システム」の評価において、下記の設置条件に対する年間発電量として正しいものはどれか。

- ※設置条件
- ・設置地域 東京
 - ・システム容量4 kW
 - ・方位角+90° (真西)
 - ・傾斜角14° (2.5寸)

1 27.5 G J

2 30.0 G J

3 31.2 G J

4 37.5 G J

5 39.0 G J

<LR_H2 資源を大切に使いゴミを減らす>

問題31 CASBEE戸建-新築の「地盤補強材・事業・基礎」の評価について、下記の記述のレベルとして正しいものはどれか。

混合セメントを用いており、地盤改良材として天然砂を用いた。

- 1 レベル1
- 2 レベル2
- 3 レベル3
- 4 レベル4
- 5 レベル5

問題32 CASBEE戸建-新築で、外装材の過半に既存建築のリユース材を使用した住宅の「外装材」の評価について、下記仕様のレベルとして正しいものはどれか。

※仕様

- ・ 屋根葺材 : 瓦棧に木粉混入樹脂建材を一部使用
- ・ 屋根下地材 : 再生木質ボードを一部使用
- ・ 外壁材 : リサイクル材を使用しない
- ・ 外壁下地材 : 再生木質ボードを一部使用
- ・ 断熱材 : グラスウールを全面に使用

- 1 レベル1
- 2 レベル2
- 3 レベル3
- 4 レベル4
- 5 レベル5

問題33 CASBEE戸建-新築の「外構材」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

- 1 再利用石材を敷石にして、竹による塀をめぐらしているので、レベル5とした。
- 2 塀周りにアルミニウム材を使用したので、レベル5とした。
- 3 古レンガによる花壇を作ったので、レベル5とした。
- 4 「持続可能な森林から産出された木材」による屋外デッキを設置したので、レベル5とした。
- 5 リサイクル材による舗装用ブロックを使用したので、レベル5とした。

問題34 CASBEE戸建-新築の「生産・施工段階における廃棄物削減」について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

- 1 「生産段階(構造躯体用部材)」の評価において、構造躯体用部材をすべて施工現場で加工したため、評価対象外とした。
- 2 「生産段階(構造躯体用部材)」の評価において、定尺物からのロスの少ない部材取りを行うように設計図書で指示されているため、レベル5とした。
- 3 「生産段階(構造躯体用部材)」の評価において、ISO14001認証を取得している工場生産された構造躯体用部材を使用したため、レベル5とした。
- 4 「施工段階」の評価において、メタルフォームを使用して型枠材の削減を行っているため、レベル5とした。
- 5 「生産段階(構造躯体用以外の部材)」の評価において、ISO14001認証を取得している工場生産された住設機器を2つ採用したため、レベル4とした。

問題35 CASBEE戸建-新築の「リサイクルの促進」について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

- 1 「使用材料の情報提供」の評価において、住まい手に対して、住宅に使用されている材料のリサイクルや廃棄に対する何らかの情報提供を行っているため、レベル5とした。
- 2 「使用材料の情報提供」の評価において、接合金物のメーカー、製品名、型番については住まい手に対しての情報提供を必要としない。
- 3 「使用材料の情報提供」の評価において、インターネットを通じた住まい手への情報提供は評価しない。
- 4 「使用材料の情報提供」の評価において、対象とする住宅に使用されていない材料に関する住まい手への情報提供は評価しない。
- 5 「使用材料の情報提供」の評価において、住宅に使用されている材料のリサイクルや廃棄に関する情報提供を住まい手に対して行っていないため、レベル3とした。

<LR_H3 地球・地域・周辺環境に配慮する>

問題36 CASBEE戸建-新築の「地球温暖化への配慮」の評価について、評価対象建物のライフサイクルCO₂の排出率が、一般的な住宅（参照値）に対して120%となった場合のレベルとして最も近いものはどれか。

- 1 レベル 1.4
- 2 レベル 1.8
- 3 レベル 2.2
- 4 レベル 3.4
- 5 レベル 3.8

問題37 CASBEE戸建-新築の「地域インフラの負荷抑制」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

- 1 外構面積の30%を池、30%を透水性舗装としたため、取組み1として評価した。
- 2 生ごみについては処理設備を設け、資源ごみについては、金属、古紙、プラスチックの3種分別可能なストックスペースを設置したため、レベル4として評価した。
- 3 下水道未整備地域であったため浄化槽を設置したが、法令・指導に基づき設置する規模・性能のものであったため、取組みとして評価できなかった。
- 4 敷地の所在する住宅団地が造成される際、団地全体の雨水貯留を行う雨水調整池が設けられてはいるものの、敷地内では特に雨水貯留・利用設備を設置していないため、「取組み3」として評価できなかった。
- 5 雨水排水負荷抑制のため、地下浸透施設を設けたが、敷地の地下水位が高かったため、「取組み2」として評価できなかった。

問題38 CASBEE戸建-新築の「既存の自然環境の保全」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

- 1 基礎工事や接道部確保等の工事を除き、なるべく従前の地形を保全するよう努力したため、「取組み1」として評価した。
- 2 従前の表土が植物の育成に適していなかったため、全くその地域のものではないものの、良質な土壌を客土した場合も、表土の保全の「取組み2」として評価できる。
- 3 高木や中・低木の植栽の全てに地域の自生種を採用したが、既存の樹木を全て伐採せざるを得なかったため、レベル1として評価した。
- 4 従前の地形を改変せずに保全し、既存の高木、および、中・低木の全てを残して保全したために、レベル5として評価した。
- 5 既存の自然環境・自然資源の保全について、全く配慮ができなかったため、レベル1として評価した。

問題39 CASBEE戸建-新築の「騒音・振動・排気・排熱の低減」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

- 1 騒音値が52dB(A)のエアコン室外機を設置する際、敷地境界までの距離を5m確保し、防振ゴムにより機器と基礎を分離するなどの措置をとったので、騒音・振動の発生源への取組みとして評価した。
- 2 騒音や振動、排気、排熱の発生源となる設備機器を屋外に全く設置しない場合は周辺への影響がないため、レベル5として評価する。
- 3 全ての屋外設備機器に一般的な配慮をした上で、一部の機器についてだけでも、評価する取組み1、または、取組み2を行えば、レベル4として評価できる。
- 4 騒音値が47dB(A)の給湯設備を、敷地境界部から1.3mの位置に配置し、防振のため適切な施工をした場合、騒音・振動の発生源として一般的な配慮をしているといえる。
- 5 隣接住宅の開口部や給気口の周辺に排気・排熱を排出しないようにすれば、自宅や隣接住宅の敷地内の植栽に多少の影響が生じて、排気・排熱の発生源への取組みとして評価できる。

問題40 CASBEE戸建-新築の「周辺温熱環境の改善」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

- 1 敷地周辺への風通しの配慮について、夏期の卓越風向に対する建物の見付面積の比率が65%になったため、「取組み1」としては評価できなかった。
- 2 敷地面積の8%にあたる舗装部分は透水性にしたものの、舗装された部分全体が敷地面積に占める割合が25%であったため、「取組み3」の①としては評価できなかった。
- 3 敷地面積に対する割合が、芝生が5%、中・高木の樹冠の水平投影面積が3%、池の水面面積が4%であったため、「取組み2」として評価した。
- 4 敷地が林間にあり、隣接住宅がなく、周辺の温熱環境に及ぼす影響が全くなくても、それだけではレベル5の評価にはならない。
- 5 全屋根面積の25%を緑化したため、「取組み4」の①として評価した。

平成23年度後期（第9回）CASBEE戸建評価員試験（新築_既存） 正解値

問題番号	正解値	配点
1	2	1
2	1	1
3	3	1
4	4	1
5	2	1
6	5	1
7	1	1
8	4	1
9	(※注)	1
10	3	1
11	1	1
12	5	1
13	3	1
14	1	1
15	4	1
16	1	1
17	2	1
18	4	1
19	3	1
20	4	1
21	3	1
22	5	1
23	4	1
24	4	1
25	3	1
26	2	1
27	1	1
28	5	1
29	4	1
30	2	1
31	4	1
32	5	1
33	2	1
34	5	1
35	3	1
36	1	1
37	2	1
38	3	1
39	5	1
40	2	1

満点	40点
配点	1問各1点

※ 問題9については、戸建-既存マニュアルに誤植があったため全員正解とした。